

な る ど

八戸聖書キリスト教会
牧師：澤田 隆一
電話：0178-43-3091

NO・26
2014年、
9月28日

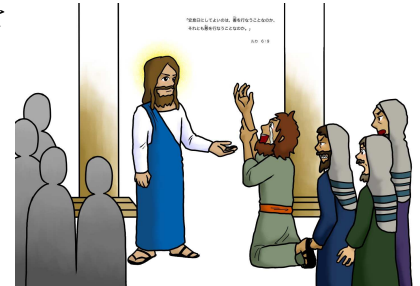


あなたは、あなたの神、主の御名をみだりに唱えてはならない。

出エジプト 20:7.

安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

出エジプト 20:8.



十戒の第2戒「主の御名をみだりに唱えてはならない。」

主の御名をみだりに唱えるとは、神様の聖なる名前を正しく使うべきであり、悪い使い方をしてはならないということです。

正しい使い方とは、日頃信仰者が神様の御名によって祈り、賛美し、感謝を献げることや正当な機関が誓約を求めるとき、御名によって誓うことを許されているということです。

神様は、私たち信仰者が御名を用いて献げる賛美や祈りには喜んで御名を使わせてくださいます。

では、御名を悪用するとはどんなことでしょうか。それは、魔術や占い、霊媒や嘘をつくことに神様の御名を用いることです。ゲッセマネの園でイエス様が捕まった夜、弟子のペテロは大祭司の中庭に入り、3度もイエス様を知らないと答えたとき、神様の御名を使って否定したと記されています。これは明らかに御名を悪用した一つの実例でしょう。

私たち信仰者は、神様の御名を不用意に用いたりせず、聖なるものとして褒め称え、賛美のとき、祈りのとき、感謝をもって神様の御名を用いさせて頂きましょう。

十戒の第3戒「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。」

安息日とは、「休息」を意味する言葉です。しかし、「休む」ことだけを追求してしまうと本当の「安息」にはなりません。ここでは「聖なる日とせよ」と命じられています。

「聖なる」という言葉は「神様を礼拝する」ために、時間を献げることが本来の意味なのです。創造の初め、人が造られてから最初に迎えた翌日が安息日になります。神様を礼拝し、心と身体を休め、それから仕事へと遣わされてゆくのです。

イエス様の時代には、安息日に関する細則が千以上も設けられていたと言われます。それは、本来の「安息日」を大切にするためではなく、律法を守るために人間が考え出した規則だったのです。結果、安息日を守ることも、形式だけ守るようになりました。

イエス様は、形式的な礼拝を排除して下さいましたから、私たち信仰者は、神様と交わり、祝福を頂くために礼拝を受けることができるようになりました。神様は、毎週の礼拝毎に罪の赦し、恵みと祝福が与えられるのです。

特伝“賛美で綴る証”の紹介一部抜粋

(Ⅱ) 「朽ちることのない宝」

私たちは、自分が持っているものや大切にしているものをやむなく手離さなければならないという経験をすることがあります。

ある方は、家の商売がうまく行かず、大きな債務を背負うこととなりました。遠くまで働きに出られ、家族バラバラに暮す寂しさにも耐えなければなりませんでしたが、こうした試練の中で、ご主人や息子さんが神様を信じました。手離したものは、大きかったと思いますが、それ以上の恵みを神様は、このご家族に与えられました。

・ 賛美“幸薄く見ゆる日” ・ 賛美の中で、聖書朗読（詩篇 49:16）

「人が富を得ても、その人の家の栄誉が増し加わっても。人は死ぬとき、何一つ持って行くことができず、その栄誉も彼に従って下ってはいかない。……」

もう一人の方のお話をしましょう。この方は、40年近く、実直に勤めて来ましたが、心労が重なり、病気に倒れてしまいました。その時には、これまでに得た地位や名誉、資格や業績、そして報酬まですべて失ったように思いました。失望感に襲われ、病気との闘いも重なり、たいへん苦しい時を過ごしました。しかし、神様は、「人が、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら何の得がありません。」と、語ってくださいました。イエス様からいただいたまことの愛と救い、いのちまでは奪い取られなかったことを改めて確信できました。苦しみを乗り越えた後の喜び、そして、健康の完全な回復も与えられ、現役時代にできなかった様々なことにチャレンジしておられます。

・ 賛美“私が悩むときも”